

継続事業評価調書
【河川事業】

土木局 河川整備課

投資事業評価調書（継続：再評価〔第3回〕）

部課室名	県土整備部土木局 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課 森脇康仁 (課長補佐兼治水係長 中村浩康)	内線	4408 (4437)
------	-------------------	---------------------	--------------------------------	----	----------------

事業種目	河川事業	事業採択年度	H5		現計画	再評価時点
事業名	二級河川法華山谷川水系 法華山谷川 総合流域防災事業	着工年度	H5	総事業費	75 億円	75 億円
		再評価年度	H14(前々回) H15(前回)整備計画	内用地補償	4.0 億円	4.0 億円
事業区間	高砂市 山陽電鉄鉄橋下流～石山橋下流	完成予定年	H40			
所在地	高砂市 山陽電鉄鉄橋下流～石山橋下流	進捗率 (内用補進捗率)	20% (46%)			10% (40%)
		残事業費	60 億円			

事業の目的		事業内容			
当該地区に甚大な浸水被害(浸水面積 100ha、浸水家屋 273 戸)をもたらせた平成 2 年 9 月の台風 19 号と同程度の洪水を安全に流下させるべく河川改修を実施し、地域住民が安全で安心して生活できる環境を確保する。		現計画		前回(H15)	
		・治水安全度	1/30	・治水安全度	1/30
		・計画流量	320～260m ³ /s	・計画流量	320～260m ³ /s
		・整備延長	2,100m	・整備延長	2,100m
		・主要工種	築堤、掘削、護岸、 橋梁 8 橋	・主要工種	築堤、掘削、護岸、 橋梁 8 橋
〔負担割合 国:1/2, 県:1/2〕					

事業を取り巻く社会経済情勢等の変化	<ul style="list-style-type: none"> 平成 15 年度に「法華山谷川水系河川整備計画」を策定し、事業を推進している。 平成 16 年出水においても浸水被害が発生しており、地元の河川改修に対する要望がさらに高まっている。
-------------------	---

進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 平成 5 年度より、山陽電鉄～石山橋までの L=2,100m の河川改修に着手し、竜山大橋下流左岸の護岸整備、第二塩市橋、石山橋の改築が完了している。 現在は、平成 21 年度完了予定の千鳥橋の改築及び石山橋～竜山橋右岸区間の護岸整備を行っている。
------	---

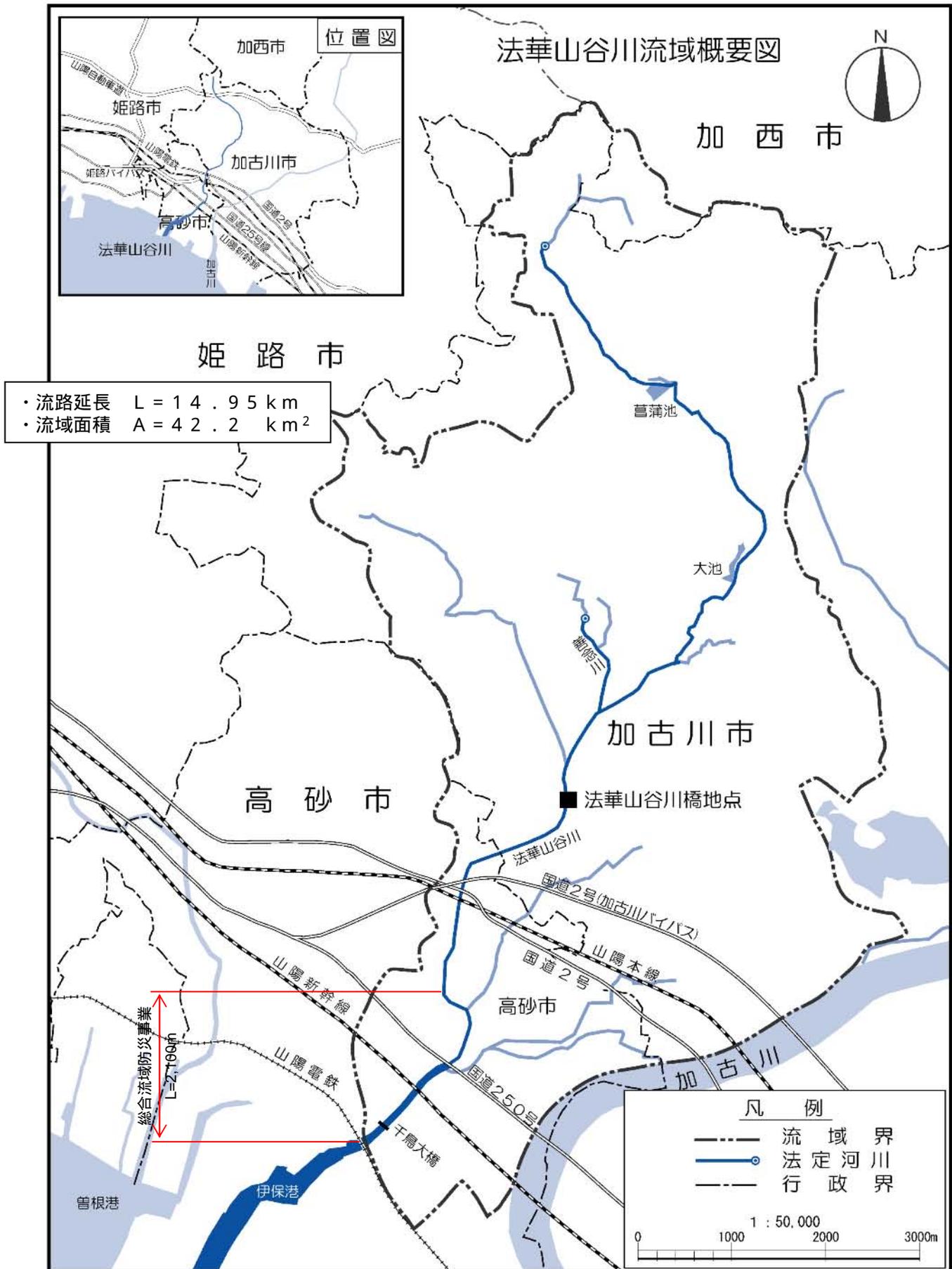
評価視点	評価結果の説明
(1)必要性	<ul style="list-style-type: none"> 平成 2 年 9 月の台風 19 号では、浸水面積 100ha、浸水家屋数 273 戸の甚大な浸水被害を受け、平成 16 年出水においても、浸水被害が発生している。また、現況流下能力は概ね計画流量の 60～70%程度であり、浸水被害の再発を防止するためにも、治水対策が必要である。
(2)有効性・効率性	<ul style="list-style-type: none"> 費用便益費 B / C = 4.5 石山橋～竜山大橋右岸部では、高砂市による市道拡幅に合わせて築堤を実施することにより、効率的な事業執行が可能である。
(3)環境適合性	<ul style="list-style-type: none"> 石山橋左岸部背後には、高砂市総合運動公園があり、高水敷の利用等、利用者の親水性に配慮した整備を行っている。 環境保全ブロックや隠し護岸を採用することにより、生物の生息環境に配慮した整備を行っている。
(4)優先性	<ul style="list-style-type: none"> 密集市街地が形成され、資産が集中している高砂市中心地の再度の浸水被害を防止するため、残事業区間を早期に改修することが必要である。 平成 16 年浸水被害により、事業に対する地域住民の意識が高い。

再評価の結果	事業継続	左の理由	上記の理由により、事業継続が適当である。
--------	------	------	----------------------

事業進捗状況概要図（継続：再評価〔第3回〕）

事業名	総合流域防災事業	路線・河川名	二級河川 法華山谷川
		事業進捗状況・予定	
全体	H5～H40年度 36年間 【事業費＝75億円】 ・全体延長 L=2.1km ・計画流量 Q=320～260m ³ /s ・整備概要 築堤、掘削、護岸、橋梁 8橋		整備効果
前回再評価まで（実績）	H5～H15年度 11年間 【事業費＝7.64億円】 ・道路橋 2橋 完成 ・竜山大橋下流右岸の築堤、護岸整備（L=300m）		河口～竜山大橋 1,200mの築堤が概成。 進捗率：10%
過去5年間（実績）	H16～H20年度 5年間 【事業費＝7.54億円】 ・石山橋～竜山橋の右岸の築堤、護岸整備（L=150m） ・道路橋 1橋（施工中）		石山橋下流右岸側の築堤が完了。また、（市）千鳥橋のネック部を解消。
今後20年間（予定）	H21～H40年度 20年間 【事業費＝60億円】 ・当面は全区間で治水安全度 1/5 を確保することとし、竜山大橋～石山橋の右岸側において築堤及び護岸整備を行う。 ・その後、下流より河床掘削及び橋梁改築を行い、事業区間全体で流下能力を確保する。		H15 策定の河川整備計画に基づき、段階的に治水安全度の向上を図る。
今後10年間の整備目標	H21～H30年度 【事業費＝20億円】 ・竜山大橋～石山橋の右岸側において築堤及び護岸整備及び竜山橋の改築が完了し、下流側より矢板護岸及び河床掘削に着手する。		事業区間全体で治水安全度 1/5 を確保。

流域概要図

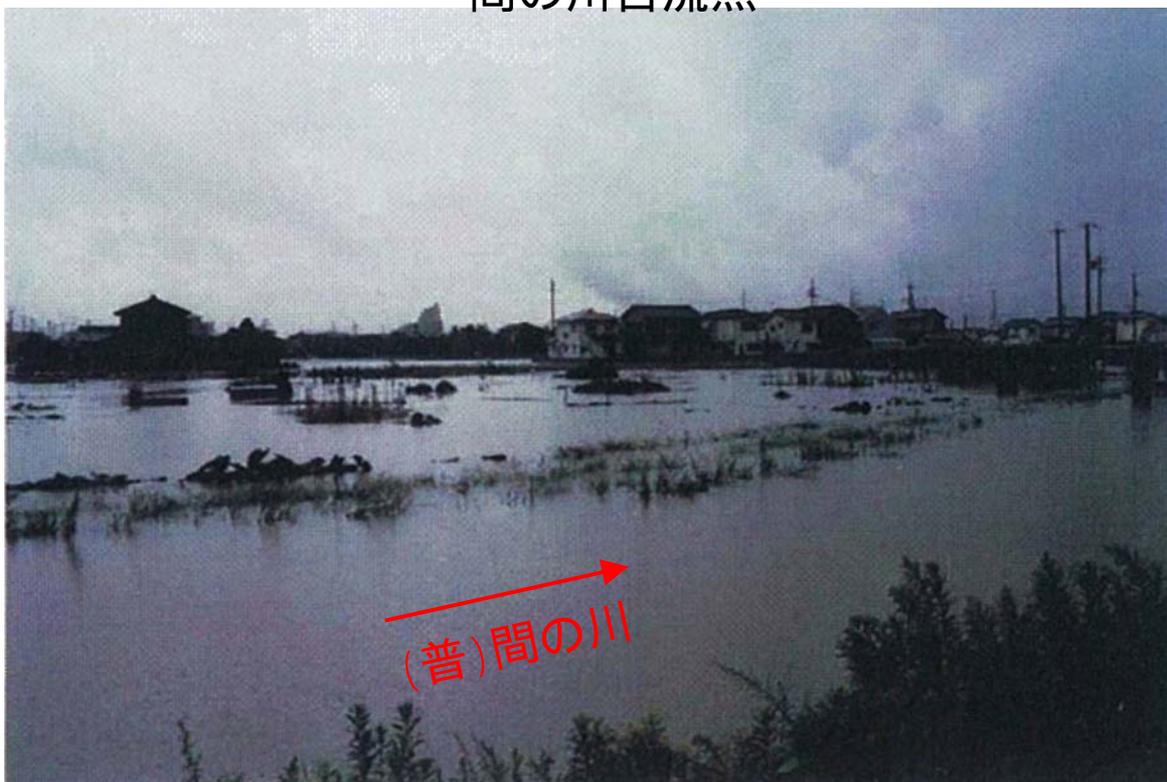


浸水状況(H2台風19号)

竜山大橋直下流



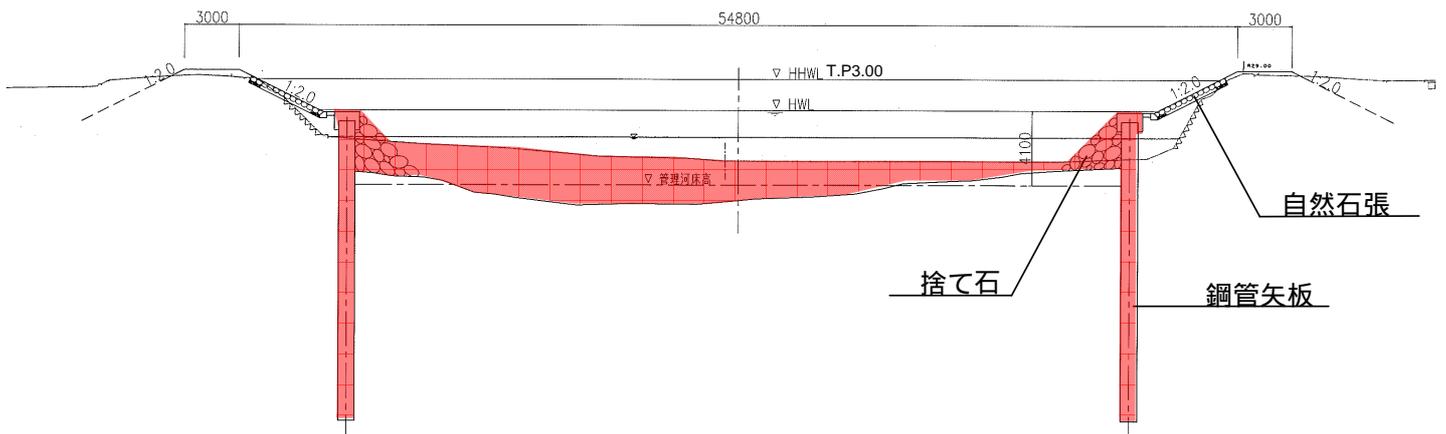
間の川合流点



整備状況(未整備箇所)



標準断面図



二級河川 法華山谷川 総合流域防災事業スケジュール

	H15まで	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31以降
測量・設計	■	■					■		■			■				■	■
用地買収	■			■	■	■	■	■	■								
掘削 (矢板護岸含む)	■													■	■	■	■
築堤、高水護岸	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■				
橋梁	■		■	■	■	■	■			■	■	■	■	■	■	■	■

<凡例>	
■	当初計画
■	実施計画

二級河川 法華山谷川 総合流域防災事業の費用便益比

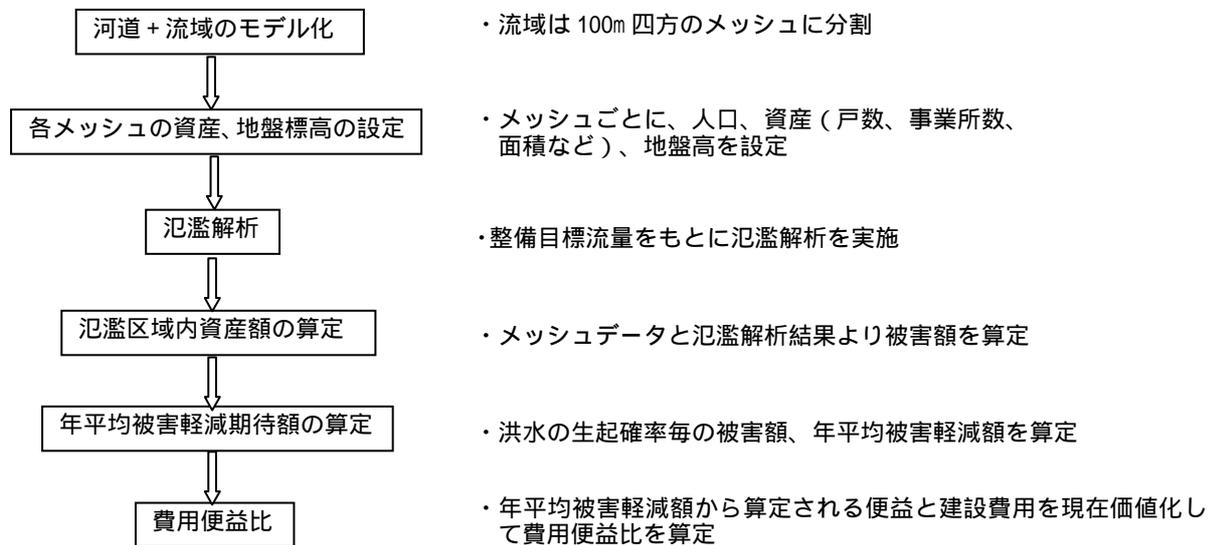
(1) 費用便益比の考え方

- 1) 便益 = 治水事業を実施することによる被害軽減期待額を現在価値化
 被害額 = 一般資産被害 (家屋、家庭用品、事業所償却資産、農漁家償却資産等)
 + 農産物被害 + 公共土木施設等被害 + 営業停止被害 + 応急対策費用
- 2) 費用 = 「建設費 + 維持管理費」を現在価値化

(2) 算定に用いた資料

治水経済調査マニュアル (案) 国土交通省河川局 平成20年2月

(3) 便益 (B) の算出方法



(4) 費用便益 (B / C)

便益 (B)		費用 (C)			B / C
総便益 (百万円)	代表的な効果	総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)	
24,998.4	確率規模 1/30 の降雨に対して ・ 浸水戸数 1,287 戸の解消 ・ 浸水面積 71ha の解消	5,467.4	4,874.5	592.9	4.5